審査の結果の要旨

氏名　　大塚啓太

本研究は、環境教育が多くの市民の社会的責任ある態度を育むことで、環境問題への対処はもちろん、環境問題に関して学ぶことへ動機づける教育である点に着目し、学校教育における環境教育を対象にして、どのような要因によって学習者は環境教育における学習や環境保全行動へと動機づけられるのか、その要因を学習観という心理志向を把握する心理測定尺度の作成と妥当性の検討、事例検証を通して明らかにすることを目的とした。

動機づけという観点から環境教育及び科学教育の目標を議論する文献の調査と学習指導要領の確認を行い、環境教育における教育施策上に定められる特性を整理した。環境教育は、科学教育の一部を担う一方で、科学的概念の論理的把握（科学性）よりも、日常への活用・身近な環境配慮（日常性）に重きを置いている点で特性が認められた。更に、実際に環境教育に取り組んでいる学習者側へ調査結果も加え、教育施策と学習者側双方の立場から環境教育の特異性を考察した。環境教育は、自発的な学習へ動機づけることで態度を育むという目標に沿って、学習者に自ら気付かせる機会を与える教育であること、学習者側も知識量によって測られるような達成目標を果たすこととは別の心理志向によって環境教育に独特に動機づけられている者がいることを確認した。これを受け、学力達成目標を念頭において把握される既存の動機づけ要因とは異なる、環境教育へ特別な動機づけ要因を新たに把握する必要性を指摘した。

その為、動機づけ要因として把握を試みる環境教育に関する学習観は、全く新しい知見を探索的に検証することに意義があることを指摘した。環境教育に対して動機づけが成立した学習者への意見収集を行い、全ての意見を整理することによって学習者はどのように環境教育を捉えているのかを整理した。その結果、環境保全への責任を示す回答が複数種類得られると共に、数量調査によって客観的に比較可能な心理志向として整理された、環境教育に関する学習観尺度を得た。本尺度の妥当性指標として因子負荷量、クロンバックのα係数を確認し、構成する心理志向として、「思考拡張・充実志向」、「保全責任志向」、「環境探求志向」、「確実性志向」、「意義欠落志向」、「教師依存志向」、「適応志向」、

「日常生活志向」とした。この8因子を把握する32の質問項目を精選し、本研究にて独自に作成した学習観尺度を提示した。

本学習観尺度を教育実践の現場に適用し、授業実践に沿った学習観尺度の運用性を検証した。都内D中学校の総合的な学習の時間、及び特設プログラムにおける実践を対象事例とし、授業実践上の内容が学習観の示す内容と如何に関連するかを照合した。この事例検証を受けて、より検証に耐え得る学習観の構成を再検討し、最終的に「環境認識・保全責任志向」、「思考拡張・充実志向」、「確実性・適用志向」、「教師依存志向」、「身体的体験志向」、「意義への適応志向」の6因子41項目へと整理された。この内、環境教育に独特な動機づけ要因となる心理志向として、「環境認識・保全責任志向」、「思考拡張・充実志向」、「身体的体験志向」が関わると考察した。これらの心理志向が高い学習者は、教員の指示に沿った学習行動が生起しつつ、生徒自身も深い思考を行いながら行動する可能性が示唆された。また、「確実性・適用志向」、「教師依存志向」、「意義への適応志向」は従来の動機づけ要因との対応が確認でき、環境教育と従来教育との動機づけを対比的に確認する際にも本学習観尺度は有用であると考察した。

これら6つの心理志向が動機づけ要因として作用することを踏まえ、教育実践への提言を行った。教員は環境教育への動機づけ要因であり、環境教育に臨まれる社会的責任を伴う心理志向である環境認識・保全責任志向へ学習者を高める工夫が必要であると結論した。その為には、学習の途上で知識量や計画性を試すような働きかけを避ける、学習内容への興味喚起に重点を置き、友人との交流場面を設定する工夫が有用であると指摘した。また、本研究で新たに開発した環境教育に関する学習観把握質問紙を、授業を実施する教師が生徒に対して実施し、学習観を把握することで、より効果的な環境教育を実施することが可能となる。

なお、動機づけ要因として更なる解釈をするべく、学習者の周囲環境や属性を併せた心理面以外を含めた動機づけ要因の解明は今後の課題とした。

以上のように申請者は環境教育における学習者の動機付けに関する一連の計測手法を開発しその応用例を明らかにしたことは自然環境学の成果として評価できる。

従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める。

（以上 1,911 字）